【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	白石町立福富小学校

1　前年度 評価結果の概要	**・学力向上に関しては、基礎学力テストや検定テストの実施により基礎学力の定着を図った。また、互いの考えを伝え合う「なるほどタイム」の効果的な設定についても研究を深めてきた。今後は、発達段階に応じた「なるほどタイム」の体系化や更なる基礎学力の定着を図る。 ・様々な学習活動や教育活動全体を通して、児童の自己肯定感を高め、「自分のよさがわかる」児童を増やしたい。保護者や地域とも連携する。 ・コロナ禍による制限の中でも、地域人材や教材を活用しながら学習を深めることの価値や意義を、児童及び教職員も強く感じることができた。 ・校時の見直し、ＩＣＴの活用などを通して、職員の業務時間を確保、職員の業務の精選と効率化を図り、業務改善に取り組んでいく。**
2　学校教育目標	**自ら学び、思いやりと元気あふれる子どもの育成**
3　本年度の重点目標	**①自ら進んで考え行動する（自ら学ぶ子） ②自他のよさを認め合う（思いやりのある子）・・・特に「自分のよさ」 ③進んで挨拶　トライ＆エラー＆チア（元気のある子）**

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○単元テストにおいて、知識・技能の項目で85%以上達成する児童80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに，校内学力向上研修により取組の促進を図る。 ・基礎学力テスト，検定テストを実施し形成的評価を充実させ個別指導に生かす。 ・ドリル学習の内容や方法を工夫する。	A	・校内学力向上研修を2回行い、本校児童の実態把握と成果指標の設定を行った。成果指標を達成した教師は86%で、学力向上に向け日々取り組みを重ねている。 ・単元テストにおける知識・技能の項目は、4教科において国語以外は平均点85%を達成できた。	A	・校内学力向上研修を3回行い、本校児童の実態把握と来年度に向けての成果指標の設定を行った。学力向上を意識した指導・分かりやすい授業の工夫を行った。授業のステップを基本とした授業づくりをした教師は、いずれも100%で、学力向上に向け日々取り組みを重ねている。来年度はさらに基礎学力の向上、表現力の向上に力を入れたい。 ・単元テストにおける知識・技能の項目は平均で国語86%、算数81%を達成できた。	A	・学力向上に向けて、全職員による共通理解と共通実践ができているの問いに対し、肯定的評価が82%であった。 ・制約の中、子どもたちにいろいろな体験をさせていただいていることに感謝したい。	・学力向上対策コーディネーター(川浪) ・研究主任(江頭)
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○算数アンケートにおいて「算数の学習はよく分かる・だいたい分かる」と回答した児童80%以上	・自分の考えをもち，伝え合う「なるほどタイム」を通して，自分の考えを深めさせる。	A	・算数アンケートにおいて「算数の学習はよく分かる・だいたい分かる」と回答した児童は、91．6%で、ほとんどの児童が算数の学習内容を理解できていると感じている。また、どの学年も「なるほどタイム」を実施できているが、今後はさらに考えを深め合う活動にしていきたい。	A	・「なるほどタイムで自分の考えを進んで伝えている・伝えている」と回答した児童は80%で、多くの児童が友達と考えを伝え合うことに意欲的に取り組むことができるようになっている。	A	・学習内容の定着に向けて分かりやすい授業の実践をしているの問いに対し、肯定的評価が100%であった。	・学力向上対策コーディネーター(川浪) ・研究主任(江頭)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケートにおいて「自分のよさがわかる」と回答した児童80%以上 ○道徳に関するアンケート(年2回実施)において肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・6月の人権集会で友達のよいところ見付けを提案し、年間を通して道徳や日常生活の中で振り返りやアンケートの実施する。	B	・友達のよいところを書いて提示する『ぽかぽかポッケ』に取り組んだ。自分のよさに気づくきっかけ､ではなったが、アンケートにおいて「自分のよさがわかる」と回答した児童は67%だった。自己肯定感を高めるために、取り組みを継続をしていく必要がある。	A	・『ぽかぽかポッケ』に継続して取り組んだが、自分のよさにが分かる児童は67%と変わらなかった。1月に行った特別支援の啓発活動で友達を認める内容に加え、自分のよさにも目を向けるような内容にした。 ・日々の道徳教育の取り組みで肯定的な回答をした児童は89%となった。	A	・児童が自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を育む教育活動を行っているの問いに対し、肯定的評価が91%であった。 ・コロナの制約も緩和されつつあるので、子どもたちがのびのびとした生活を送ることができるようにしてほしい。	・道徳教育推進(馬場) ・人権・同和教育(今泉)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義，いじめの防止等のための取組，事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・年に3回「こころのお天気」アンケートと年2回の「いじめアンケート」を児童に実施し、必要に応じて対応する。 ・児童に関わる情報交換を毎週水曜日に行い、学期1回はグループ協議を行う。	A	・計画通りに「こころの天気」「いじめのアンケート」を行うことができている。気になる児童に対して早急に対応したり経過観察したりすることができている。 ・週に1回、情報交換を行い、全職員で共通理解して取り組むことができている。 ・いじめ防止に組織的対応が「十分できている」「おおむねできている」と答えた職員は93．3%だった。	A	・計画通りに「こころの天気」「いじめのアンケート」を行うことができている。気になる児童に対して早急に対応したり経過観察したりすることができている。 ・週に1回、情報交換を行い、全職員で共通理解して取り組むことができている。 ・いじめ防止に組織的対応が「十分できている」「おおむねできている」と答えた職員は100%だった。	A	・いじめの早期発見、早期対応に取り組んでいる。またその体制づくりをしているの問いに対し、肯定的評価が100%であった。 ・強い口調の先生がいたので、もう少し子ども目線の指導がいいと思った。	・生徒指導(中尾) ・教育相談(馬場・筒井)
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進 ◎自分で考え、進んで取り組む気持ちを高める教育活動の推進	◎ キャリアパスポートにおいて自らの夢や目標に対して前向きな考えを記入した児童を80%以上にする。 ◎弁当作りや福富っこチャレンジを通して、前よりも自分から進んで取り組むことが増えたという児童80%以上	・ キャリアパスポートを活用するとともに，キャリア教育を意識した授業実践を1人1回以上行う。 ・教科等，学校行事等を通して，夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設け，学びの振り返りを行う。 ・「福富っ子チャレンジ」の機会を年3回以上設け、紹介をしする。	B	・教科や学校行事のふりかえりのときには、今後のめあてやこれからがんばっていきたいことを考えさせることができた。 ・「前よりも自分から進んでチャレンジした」というアンケートに対して、79.7%の児童が肯定的な回答をした。 ・「キャリアパスポートにおいて、自分の夢や目標に前向きな答えを記入している児童がどれくらいいるか」という問いについて、90%以上の職員が「十分達成している」「おおむね達成している」と答えた。	B	・教科や学校行事のあと、自分のがんばりや友達のよさをふりかえる場をもうけたことで、互いの成長を認め会うことができた。 ・6年生において、数年後の自分を想像したり、職業について調べたりする学習を行うことで、将来について前向きに考えることができた。 ・「福富っ子チャレンジ」などの取り組みを通して、「自分から進んで」という意識が高まり、80%近くの子どもが肯定的な回答を行った。	B	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動を行っているの問いに対し、肯定的評価が75%であった。 ・コロナ禍で直接目で見たり、聞いたりすることができなかったので、子どもの実態が分からない部分もあった。 ・自分の夢や希望を持ち、そのために努力する子を育ててほしい。	・心づくり部長（田代） ・教務主任(川浪) ・各教科主任
●健康・体つくり	①運動習慣の改善や定着化 ○体づくりの推進	○始業前や業間，昼休みの時間外遊びをよくすると回答する児童85%以上を目指す。 ○マラソン大会やがんばるマラソン週間を設定し，体力向上や健康な体づくり意識を向上させる。	・体育委員会で外遊びの奨励やスポーツイベント等を企画・運営する。 ・マラソンがんばりカードを作成し，目標をもって体づくりに取り組ませる。	B	・朝や休み時間などで外で遊んでいると回答した児童は64.5%だった。 ・がんばるマラソンやマラソン大会では、カードを作成し、意欲的に取り組む児童が多かった。 ・縦割り縄跳びでは、全学年協力して記録が良くなるように取り組むことができていた。	B	・朝や休み時間などで外で遊んでいると回答した児童は、1・2年生で70%、3～6年生で64%と目標達成とはいかなかった。保護者アンケートでは91%だった。 ・外遊びを行う児童に偏りがあったと思われる。縦割り縄跳び大会を行ったが、縦割り活動で行う遊びの日や全学年で行える共通の取り組みが必要と考えられる。	A	・運動習慣の改善や定着化をしているの問いに対し、肯定的評価が82%であった。 ・子どもたちを甘やかさないで、強く、厳しく、やさしくご指導をお願いしたい。	・体育主任(福田)
	②望ましい生活習慣の形成 ○あいさつのレベルアップ	○学校や家庭、地域でも元気な挨拶ができたと回答する児童80%以上	・あいさつレベルアップを意識して実践するような取組を委員会活動等と連携して行う。 ・家庭や地域にも挨拶の励行を呼びかけ、協力を仰ぐ。	B	・学校や家、近所の人に元気にあいさつをしていると回答した児童が87.3%であった。 ・成果指標は上回っているが、実際元気なあいさつができていると回答した児童は多くはない。そこで、あいさつチャレンジを3月まで継続し、シールをあいさつの木に貼るなど視覚的支援を行い、あいさつ向上の意識化を図る。	B	・学校や家庭、地域で進んで挨拶をしていると回答した児童は、1・2年生で97%、3～6年生で88%であった。指標にそ上回っているが、保護者アンケートでは76%と低い。 ・後期に、あいさつチャレンジを継続し、挨拶の奨励を行ったが、目で見える向上には至らず、より具体的対策が課題である。	A	・あいさつの指導を充実させているの問いに対し、肯定的評価が100%であった。 ・朝の挨拶運動はいつも感心している。	・生徒指導(中尾)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・定時退勤日の実施率80%以上を目指す。 ・全職員で業務内容や働き方について振り返る機会を年2回以上設ける。	・定時退勤日を設定し、職員の意識を高める取組をする。 ・学校閉庁日の設定 ・学期毎に学校運営や業務に関する振り返りを行い、課題の早期解決、具体的な改善に努める。	B	・定時退勤日を意識し、実施できている教員が80%で、意識の高まりが見られた。 ・全職員の時間外勤務の平均は30.5時間だが、個人差が大きい。 ・週時程の変更を行い、課後の事務的作業の時間確保を行った。	A	・定時退勤日を意識し、実施できている教員が80%で、昨年度と比較して5%ほど改善している。 ・全職員の時間外勤務の平均は30.1時間で、昨年度と比較すると16.7%削減された。 ・週時程の変更に伴い、課後に事務的作業の時間ができ、超過勤務の短縮につながった。	A	・業務効率化や働き方改革を推進し、時間外勤務時間の削減につなげているの問いに対し、肯定的評価が90%であった。	・管理職(教頭)

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○地域に開かれた学校づくり	○コミュニティ・スクールの実践 ○家庭，地域との連携 ○学校からの情報発信	○小中合同による学校運営協議会を年4回開催し，会議の充実とともに小中合同の取組を通して連携を深める。	・学校運営協議会では，学校経営方針等理解を得て，地域連携団体との体験活動等を計画的に進めていく。 ・児童の学習や生活の様子を伝えるため，毎月学校便りを発行し，地域でも回覧してもらう。	A	・小中合同学校運営協議会を2回開催（うち1回は書面会議）し、連携を深めている。 ・地域人材をゲストティーチャーに迎えたり、体験活動を行ったりするなど、地域と連携した学習活動を行うことができている。 ・学校だよりやホームページで情報発信を定期的に行っている。ホームページの閲覧数が大きく伸びている。	A	・小中合同学校運営協議会を4回開催（うち書面会議が1回、行事参観が1回）することができた。 ・コロナ感染症対策を行いながら、食改協を招いての料理教室の実施や、大豆の収穫、味噌づくりなど地域人材を活用した学習活動など連携を図りながら進めることができた。 ・学校だよりやホームページによる情報発信を積極的に行うことができた。ホームページは閲覧数が2万を超えることもあった。	A	・家庭と地域が連携した教育活動や取組を行っているの問いに対し、肯定的評価が90%であった。 ・地域の一人としてこれからも何か手伝いたいと思っている。	・管理職（教頭） ・教務主任(川浪)
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する理解や専門性が向上した教員80%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催，情報共有	A	・子どもを知る会を計画的に実施した。夏季休業中に合理的配慮についての研修会を実施した。 ・特別支援教育について、専門性が向上していると答えた職員が93.3%であった。	A	・特別支援学級の研究授業を4学級とも行い、特別支援学級での指導や児童の実態についての研修の機会を設けた。 ・特別支援教育について、専門性が向上していると答えた職員が95%であった。	B	・特別支援教育について教員の専門性や意識を高めるような取組をしているの問いに対し、肯定的評価が75%であった。 ・特別支援教育等については、分からないことが多く申し訳ないと感じている。	・特別支援教育コーディネーター(石戸)

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学力の向上に関しては、校内研修の充実を図り、設定した成果指標をもとに基礎学力の定着を図るため、分かりやすい授業の工夫を行った。また、互いの考えを伝え合う「なるほどタイム」の効果的な設定を行うことで、児童の伝え合う力を育てることができた。 ・道徳に関するアンケート、「心のお天気」アンケート、学校生活アンケートを通して、児童の実態を把握し、職員間で情報共有を行いながら、組織的にいじめ防止の取組や、児童の心の成長を支えていくことができた。 ・週時程の変更等で職員の教材研究や事務的な作業の時間を確保することで、超過勤務の時間を縮減することができた。今後は、さらに業務の効率化を図りたい。